

ADVANTEST®

2021年度（2022年3月期） 決算説明会

2022年4月27日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



2021年度決算報告

取締役 兼 経営執行役員

CFO & CCO (Chief Financial Officer & Chief Compliance Officer)

管理本部長 藤田 敦司

FY21業績ハイライト

- FY21通期で過去最高の受注高、売上高、営業利益、当期利益を達成
- FY21の受注高は、半導体需要の拡大および高性能化を背景に7,000億円台に
- 高付加価値テストの売上比率の増加により、売上総利益率が改善
- ROE 30.4%

FY21業績概要

(億円)

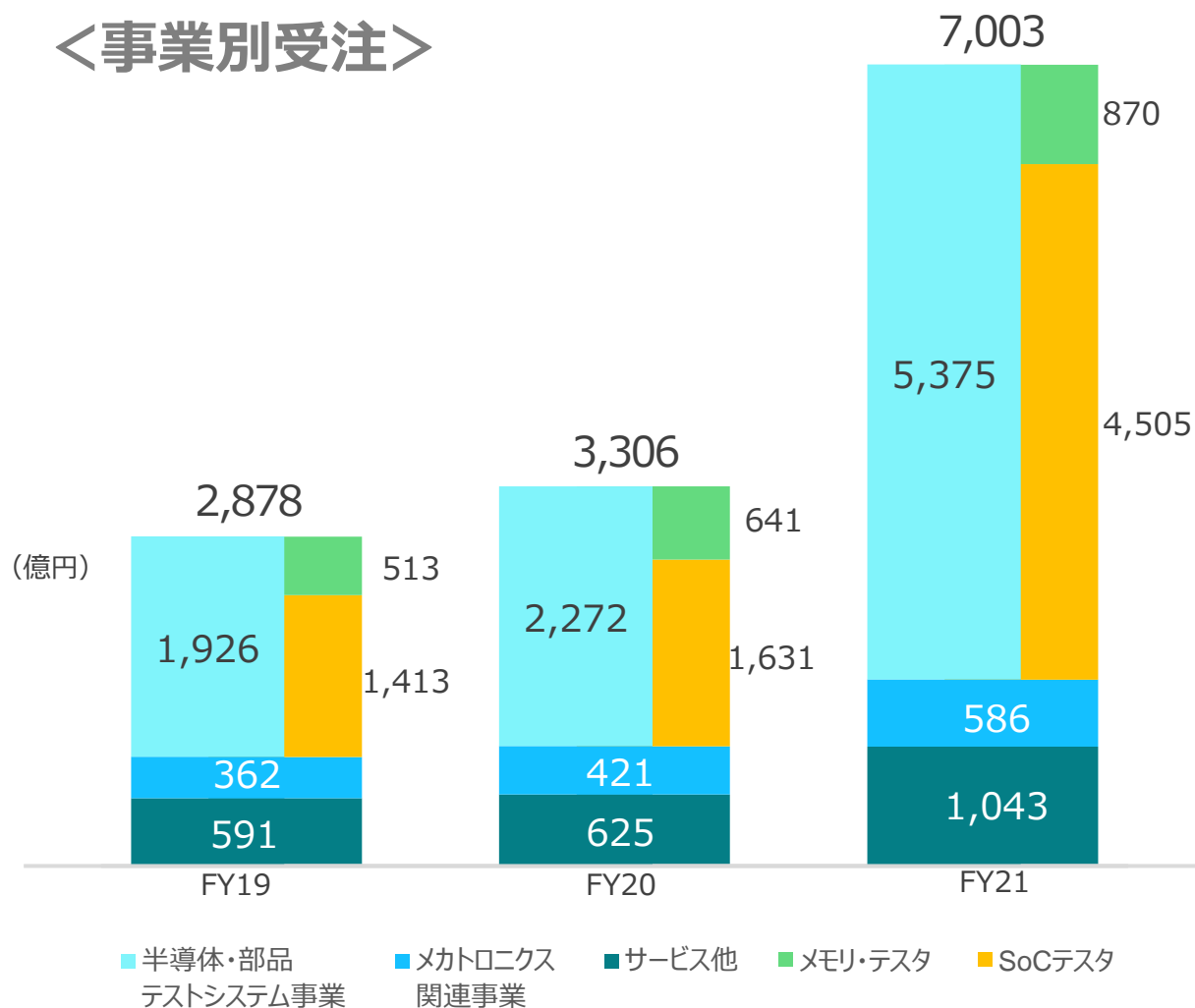
	FY20		FY21		
	実績	1月時点 予想	実績	前年度比	
				増減額	増減率
受注高	3,306	6,500	7,003	+3,697	2.1倍
売上高	3,128	4,100	4,169	+1,041	+33.3%
営業利益	707	1,150	1,147	+440	+62.2%
営業利益率	22.6%	28.0%	27.5%	+4.9pts	
税引前利益	696	1,150	1,163	+467	+67.1%
当期利益	698	863	873	+175	+25.1%
当期利益率	22.3%	21.0%	20.9%	-1.4pts	
受注残	1,088	3,512	3,947	+2,858	3.6倍
為替レート	1米ドル	106円	112円	112円	6円 円安
	1ユーロ	123円	131円	130円	7円 円安
1株当たり配当額 (年間)	118円	-	120円*1	+2円	
自己株式取得額	131	-	700	+569	
総還元性向*2	52%	-	107%	+55pts	

* 1: FY21の期末配当は2022年5月20日開催の取締役会において正式決定する予定です

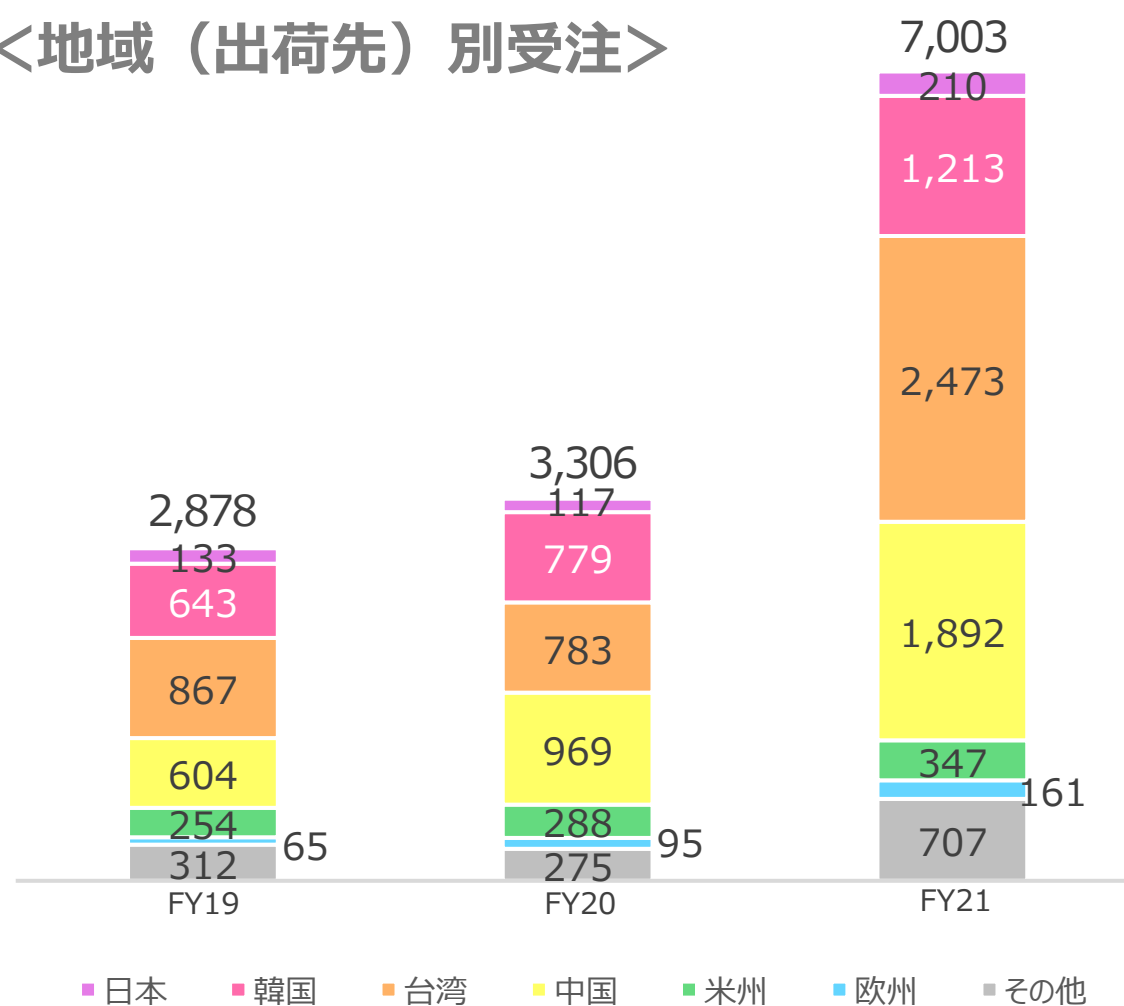
* 2: 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 当期利益

FY21受注実績 年度比較

<事業別受注>



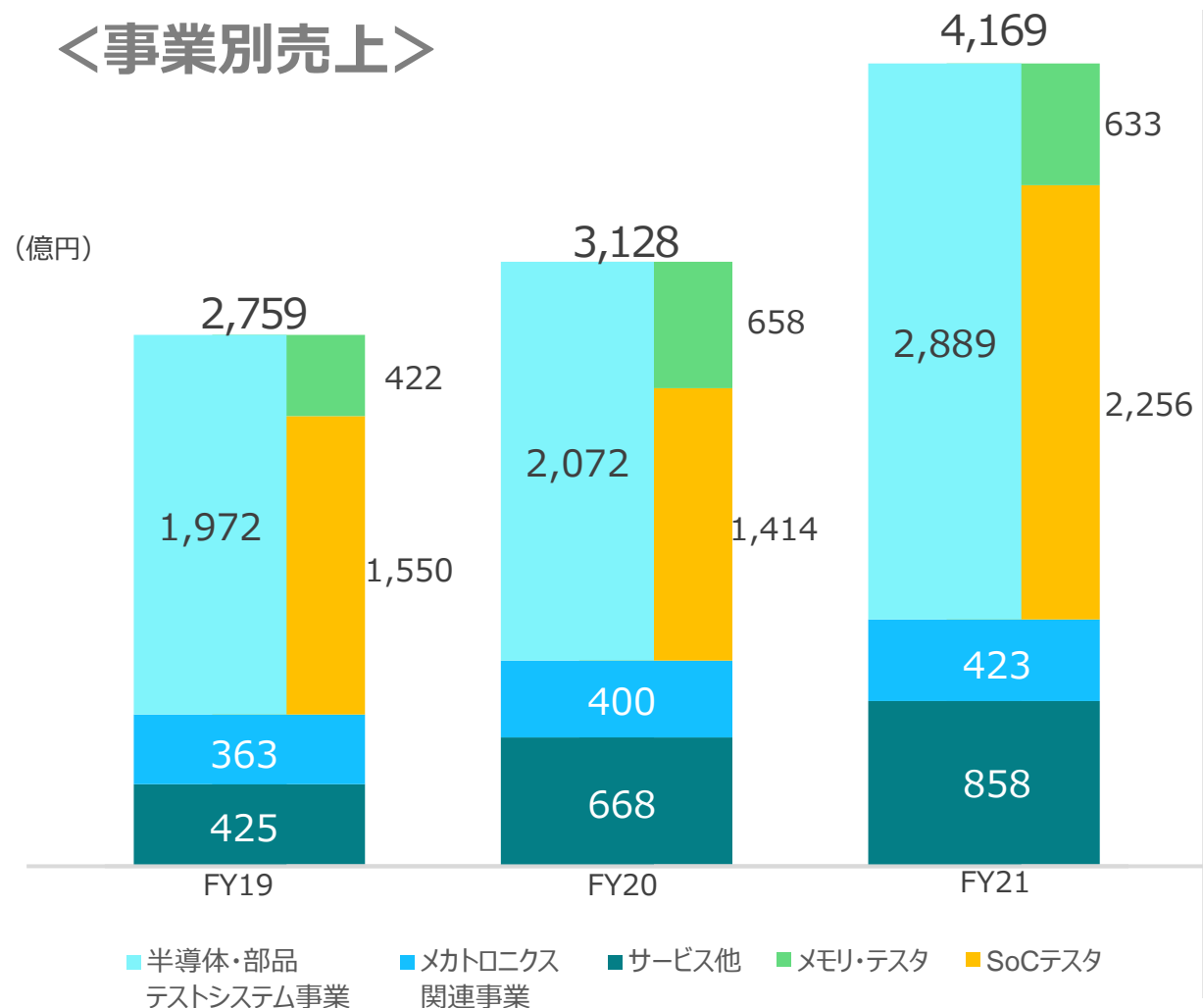
<地域（出荷先）別受注>



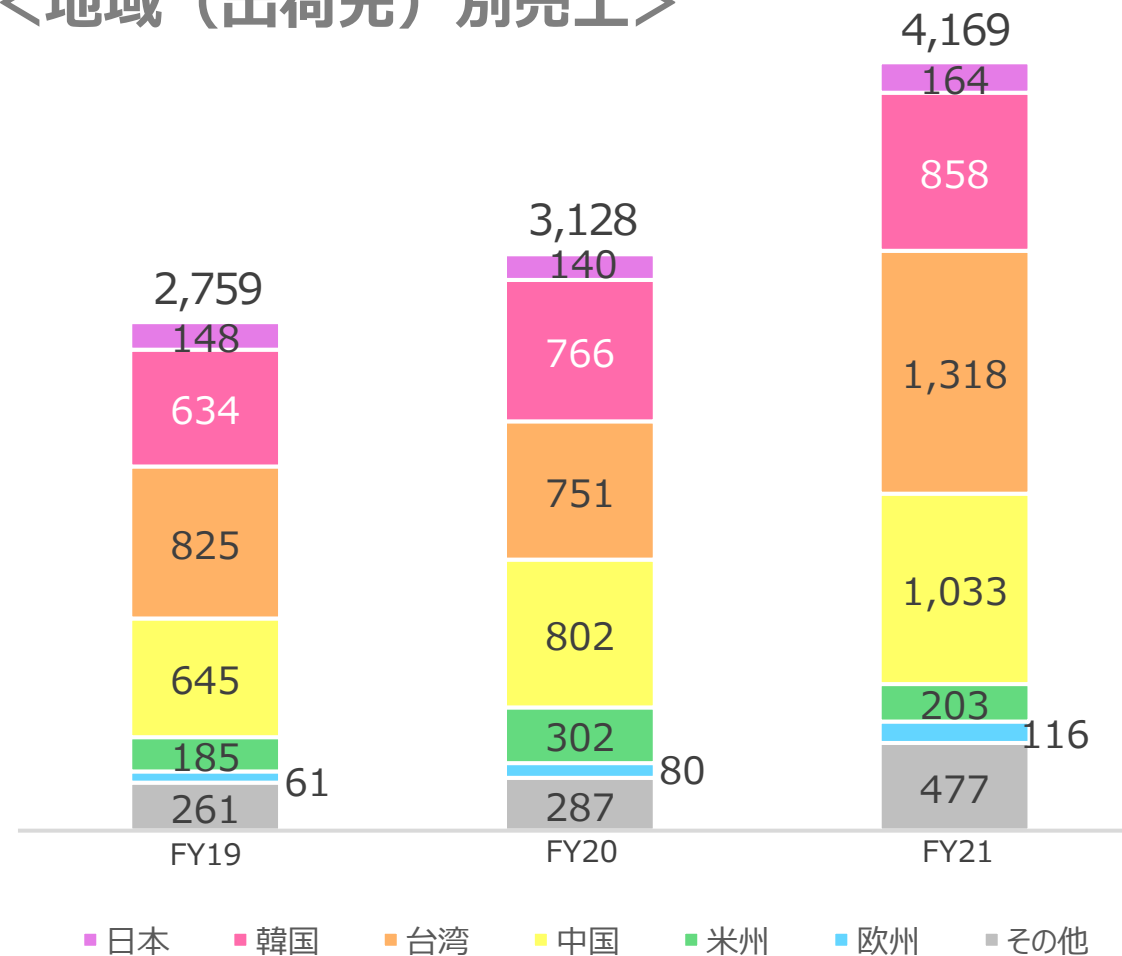
*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

FY21売上実績 年度比較

<事業別売上>



<地域（出荷先）別売上>



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

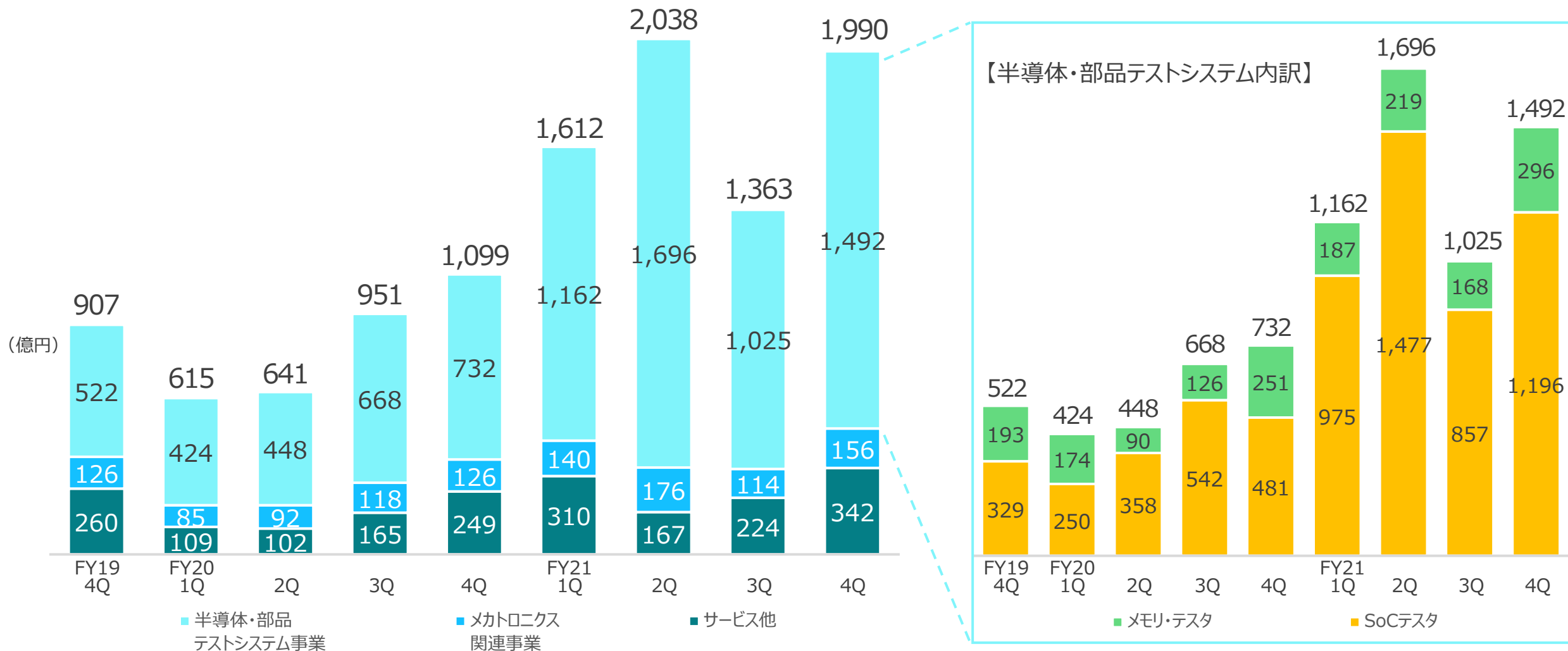
四半期業績推移

(億円)

	FY20				FY21							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前期比		前年同期比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	615	641	951	1,099	1,612	2,038	1,363	1,990	+627	+46.0%	+890	+81.0%
売上高	667	774	781	906	971	909	1,121	1,168	+48	+4.2%	+262	+28.9%
売上総利益	380	416	402	485	547	501	648	663	+15	+2.2%	+178	+36.8%
売上総利益率	56.9%	53.9%	51.5%	53.5%	56.4%	55.0%	57.9%	56.7%	-1.2pts		+3.2pts	
営業利益	135	174	153	245	261	214	335	337	+1	+0.4%	+91	+37.2%
営業利益率	20.2%	22.6%	19.5%	27.1%	26.9%	23.5%	29.9%	28.8%	-1.1pts		+1.7pts	
税引前四半期利益	129	164	139	264	257	216	340	350	+9	+2.7%	+86	+32.4%
四半期利益	106	139	120	333	193	159	257	264	+8	+3.0%	-69	-20.6%
四半期利益率	15.8%	18.0%	15.4%	36.7%	19.9%	17.5%	22.9%	22.6%	-0.3pts		-14.1pts	
受注残*	857	725	895	1,088	1,729	2,858	3,125	3,947	+822	+26.3%	+2,858	3.6倍
為替レート	1米ドル	108円	107円	105円	104円	109円	110円	112円	115円	3円 円安		11円 円安
	1ユーロ	118円	123円	124円	127円	131円	131円	130円	130円	-		3円 円安

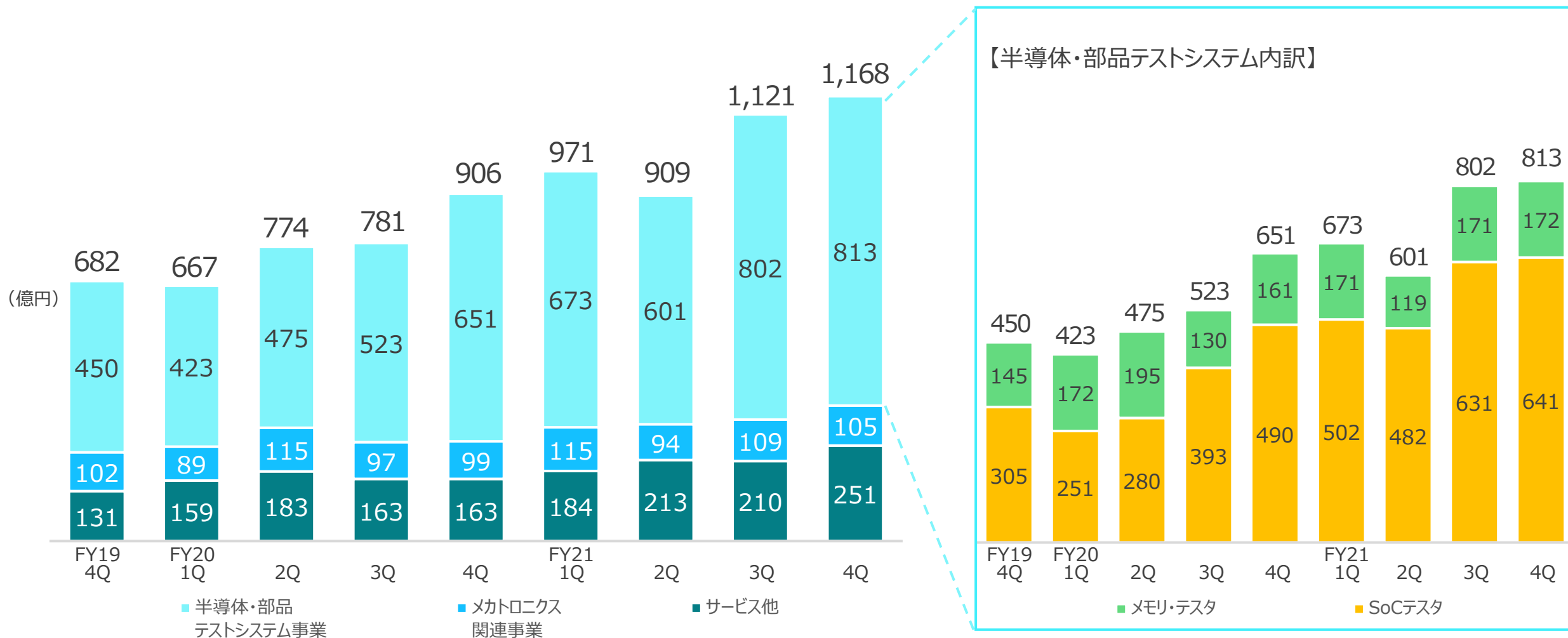
*FY21の3Qの受注残には、R&D Altanova社のM&Aに伴う移行注残24億円が含まれます

四半期受注高 事業セグメント別



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

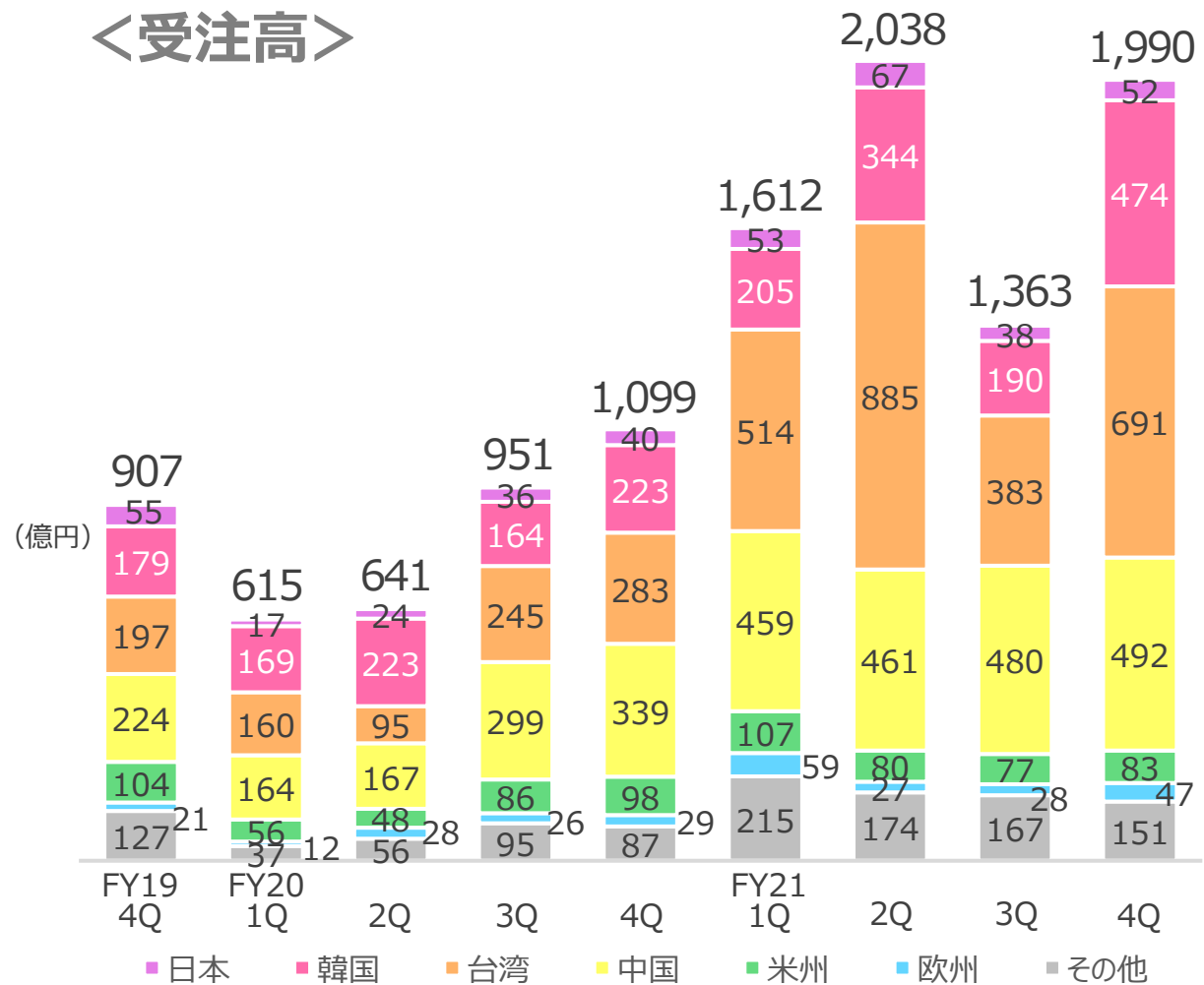
四半期売上高 事業セグメント別



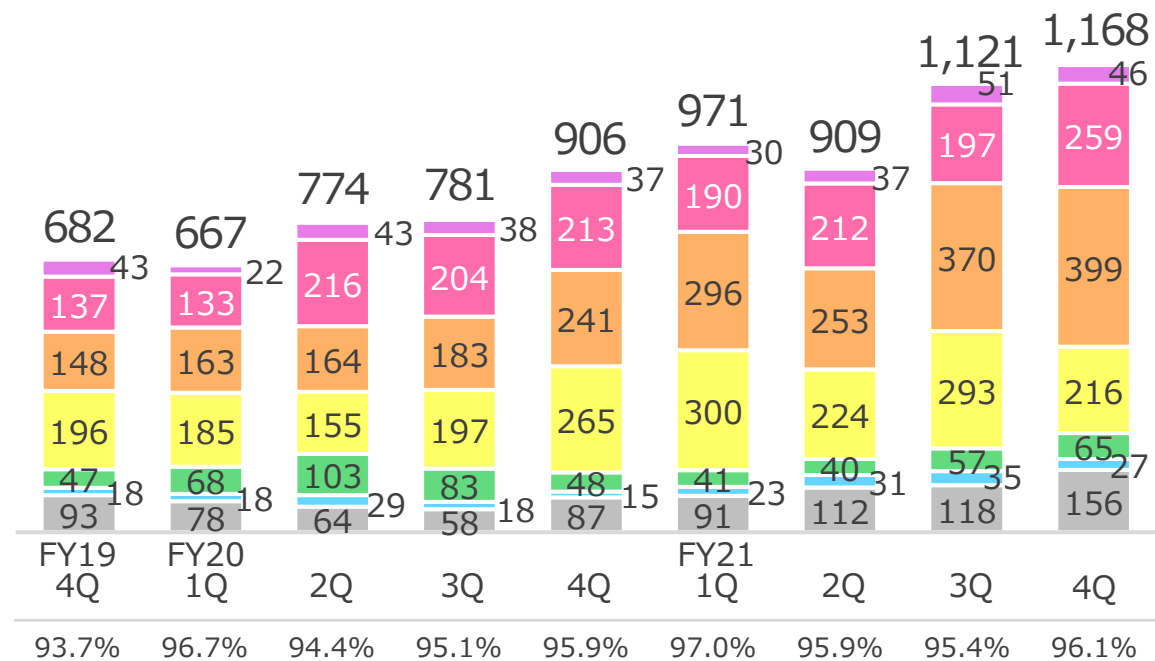
*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別

<受注高>

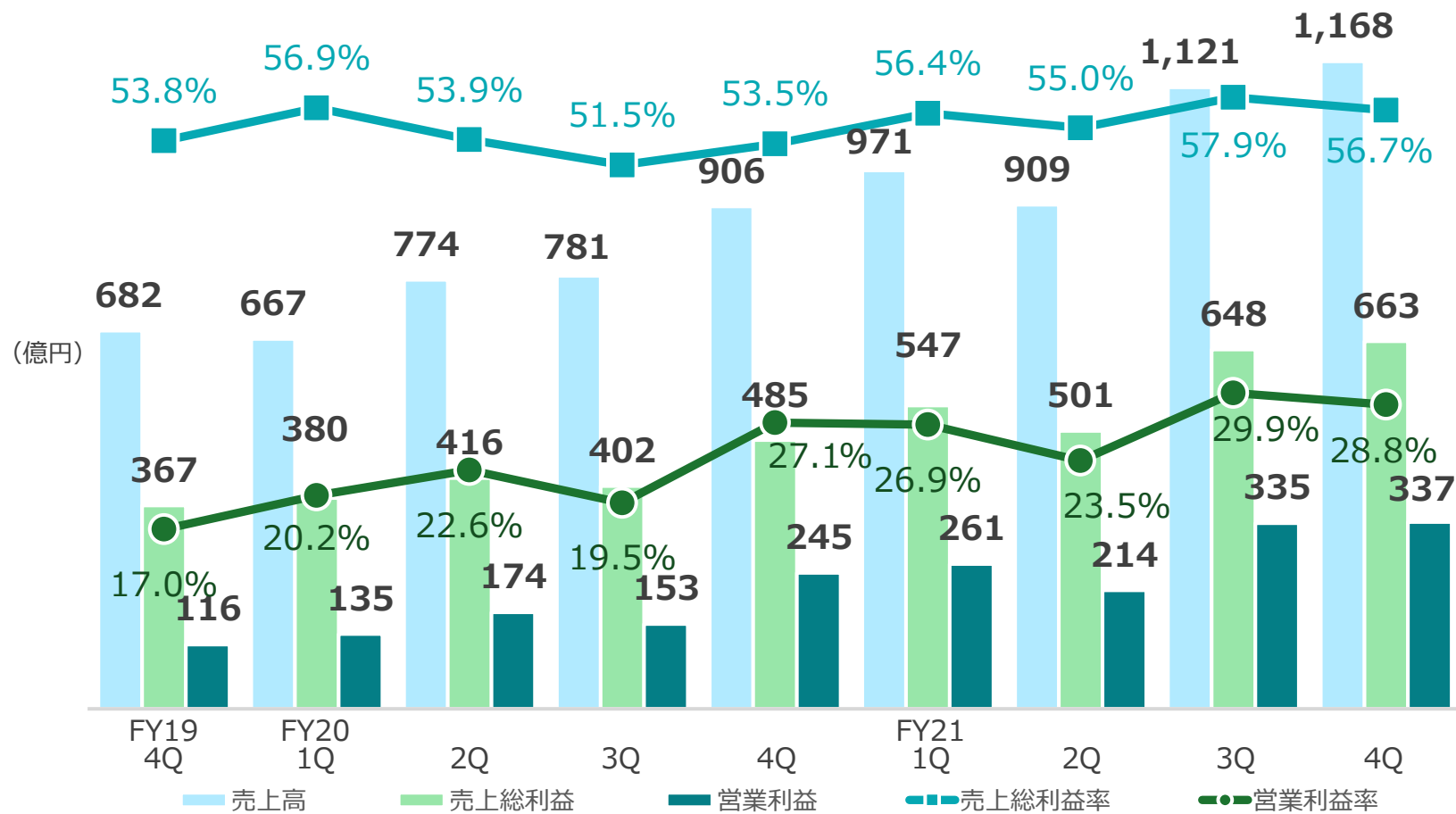


<売上高>



海外売上高比率

売上高/売上総利益/営業利益



(億円)

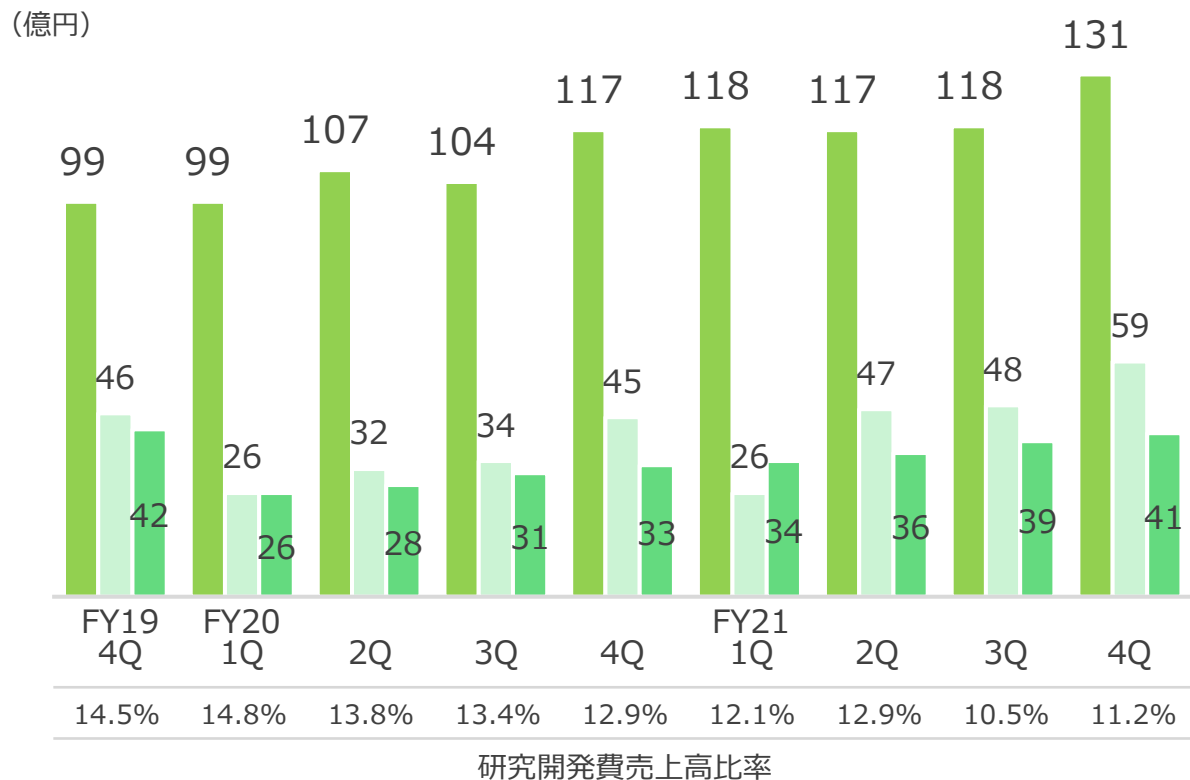
	FY20	FY21
売上高	3,128	4,169
売上総利益	1,683	2,359
売上総利益率	53.8%	56.6%
販管費等	976	1,212
営業利益	707	1,147
営業利益率	22.6%	27.5%

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

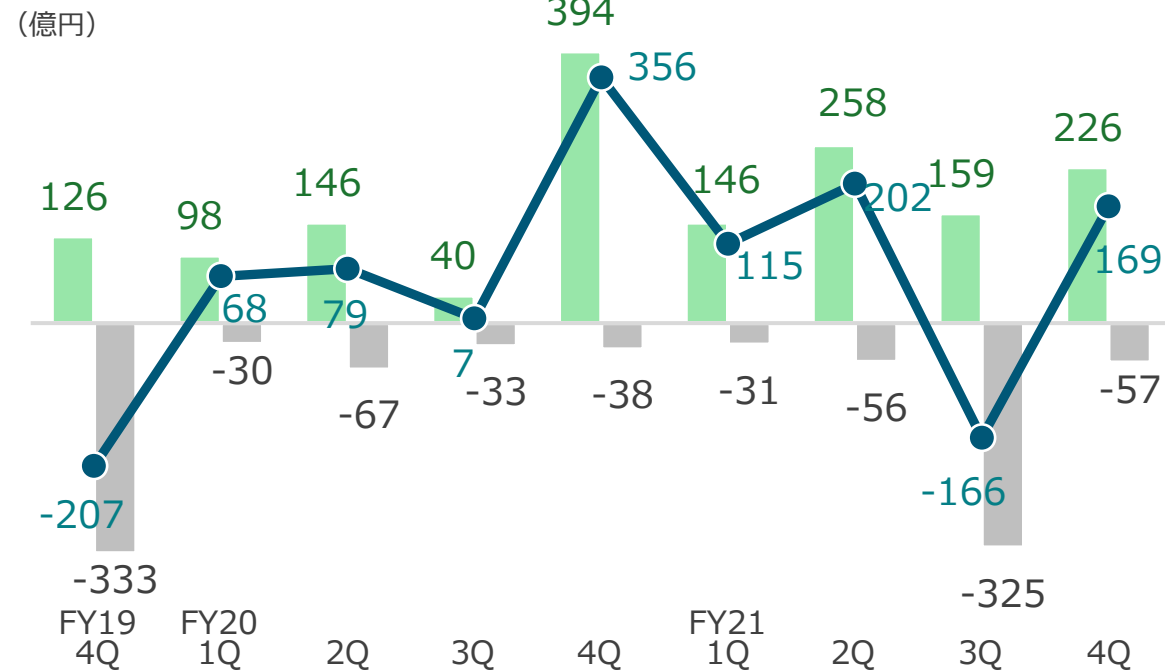
	FY20	FY21
研究開発費 売上高比率	427 13.6%	484 11.6%
設備投資	137	180
減価償却費	118	150



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

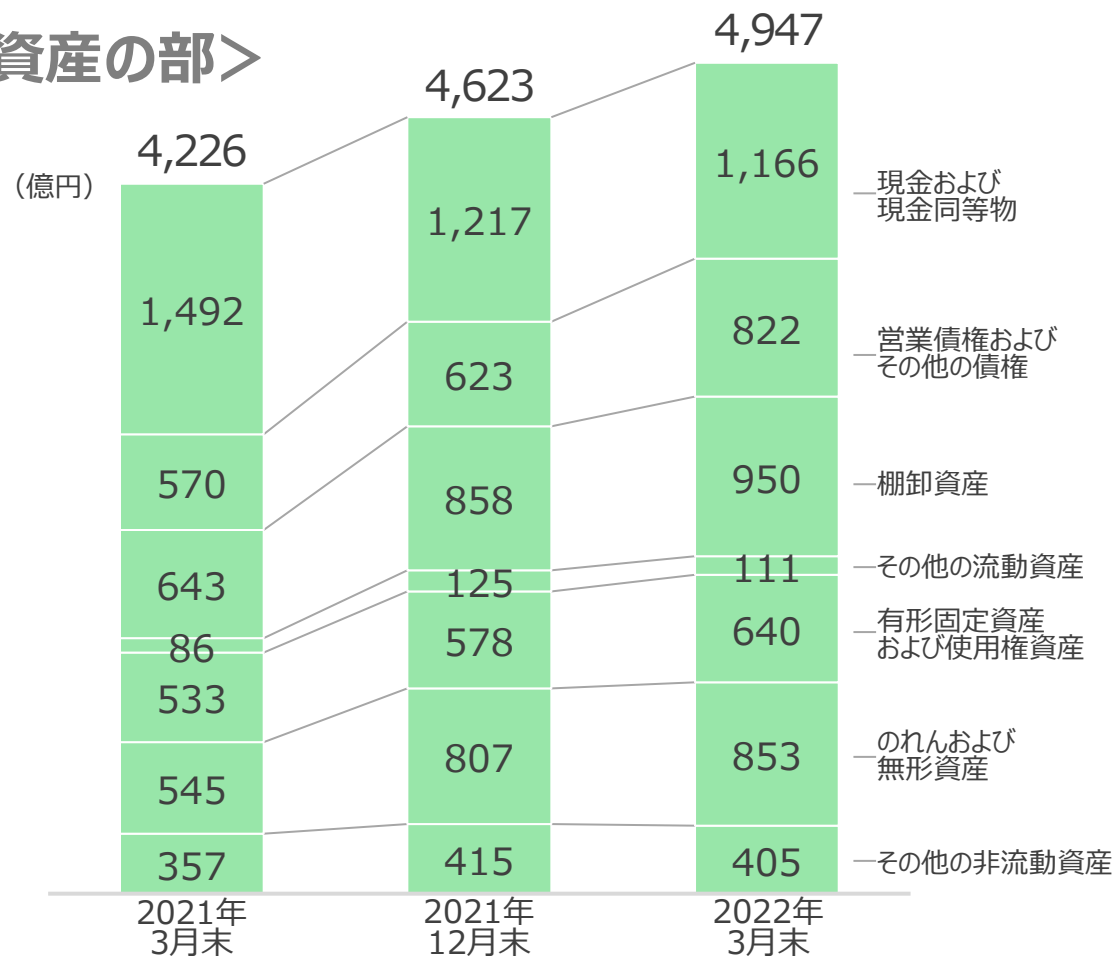
	FY20	FY21
営業キャッシュ・フロー	678	789
投資キャッシュ・フロー	-168	-469
フリー・キャッシュ・フロー*	510	320



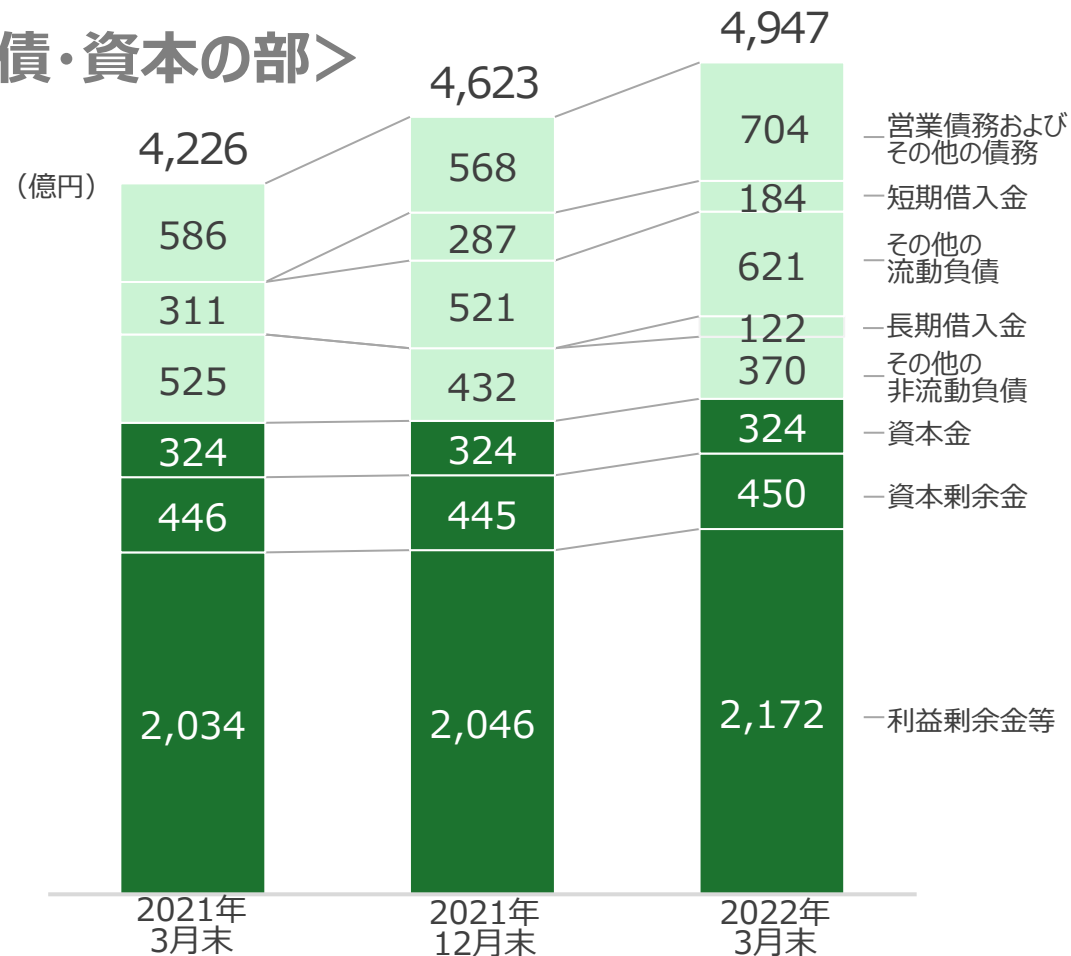
*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	2,804	2,815	2,946
親会社所有者 帰属持分比率	66.3%	60.9%	59.6%
ROE	27.3%		30.4%

第2期中期経営計画の進捗と2022年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長（CEO）

吉田 芳明

第2期中期経営計画（FY21-FY23）の初年度進捗

	第1期中期経営計画 実績 FY18-20平均	第2期中期経営計画 目標 FY21-23平均	FY21 実績
売上高	2,904億円	3,500~3,800億円	4,169億円
営業利益率	22.3%	23~25%	27.5%
当期利益	601億円	620~700億円	873億円
ROE	29.1%	20%以上	30.4%
1株当たり当期利益 (EPS)	309円	320~370円	450円

<成長投資>

	FY21-23 投資枠	FY21 実績
M&A等戦略投資	1,000億円	290億円
設備投資	400億円	180億円

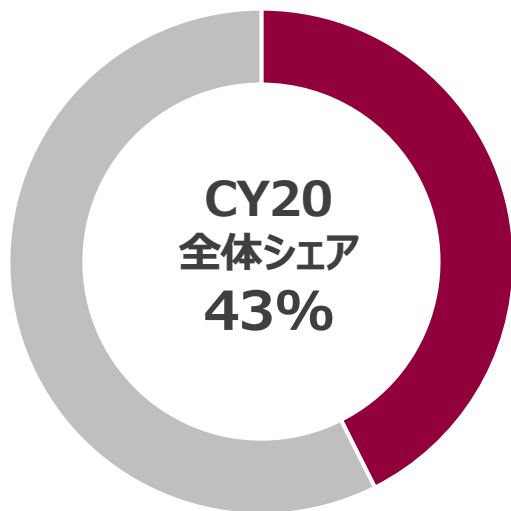
<株主還元>

	FY21-23想定	FY21 実績
株主還元額 (配当額+自己株式取得)	1,500億円以上	930億円

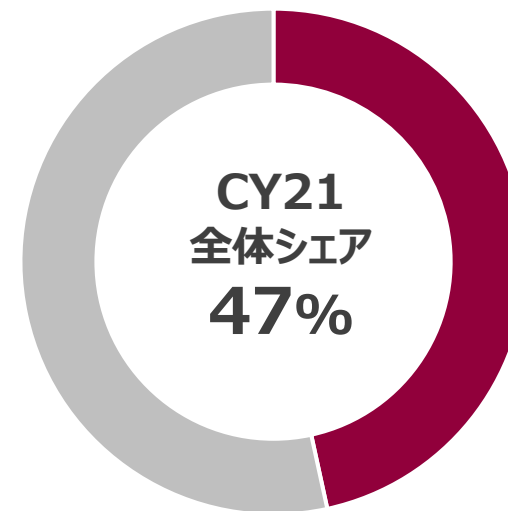
市場シェアの状況

市場規模 約\$4.2B $\xrightarrow{\text{前年比+32\%}}$ 約\$5.6B

■ 当社
■ 他社



$\xrightarrow{\text{前年比+4pts}}$



	市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$3.0B	38%
メモリ・テスト	約\$1.2B	56%

	市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$4.3B	45%
メモリ・テスト	約\$1.3B	51%

Source: Advantest

半導体テスト市場の動向 <22年4月時点の見方>

CY21実績

- SoCテスト市場: 車載・産機・民生向けの需要拡大と、ハイエンドSoCの高性能化と生産増が牽引し、前年比約43%拡大
- メモリ・テスト市場: メモリでも大容量化の進展、高速化、高性能化が堅調に進展し、市場規模拡大

CY22予想

- SoCテスト市場: HPC*などの先端プロセス品の堅調な成長に加えて、車載・産機・民生向けも一段の伸びを予想
- メモリ・テスト市場: 大容量化や高速化、広帯域化といったメモリの高性能化が引き続きテスト需要の拡大を促進

Source: Advantest

	CY20実績	CY21実績	CY22推定
SoCテスト市場	約\$3.0B	約\$4.3B (1月時点推定:約\$4.1B)	約\$4.2-5.0B (1月時点推定: 約\$4.5B - 5.0B)
メモリ・テスト市場	約\$1.2B	約\$1.3B (1月時点推定:約\$1.3B)	約\$1.3-1.4B (1月時点推定: 約\$1.4B - 1.5B)

*HPC: ハイパフォーマンス・コンピューティング

開示項目の見直しについて

- 開示項目の見直し

受注高に関する開示については、2021年度をもって終了することといたします

- 見直しの背景

- ✓ 製品のリードタイム長期化により、直近の受注高実績は過去との比較参照性が低下
- ✓ 短期変動が大きい受注高情報は中長期の事業成長トレンドとは合致せず企業価値評価での有用性が低下

**受注高の開示に代わり、事業環境や成長戦略など中長期の企業価値評価に有用な情報を
充実させることで市場との対話を深めるよう取り組みます**

FY22業績予想

(億円)

	FY21 実績	FY22 予想	FY22 前年度比	
			増減額	増減率
			売上高*1	4,169
営業利益	1,147	1,500	+353	+30.7%
営業利益率	27.5%	29.4%	+1.9pts	
税引前利益	1,163	1,500	+337	+28.9%
当期利益	873	1,125	+252	+28.9%
当期利益率	20.9%	22.1%	+1.2pts	
研究開発費	484	600	+116	+24.0%
設備投資	180	270	+90	+50.0%
減価償却費	150	168	+18	+12.0%
為替レート*2	1米ドル	112円	120円	8円 円安
	1ユーロ	130円	135円	5円 円安

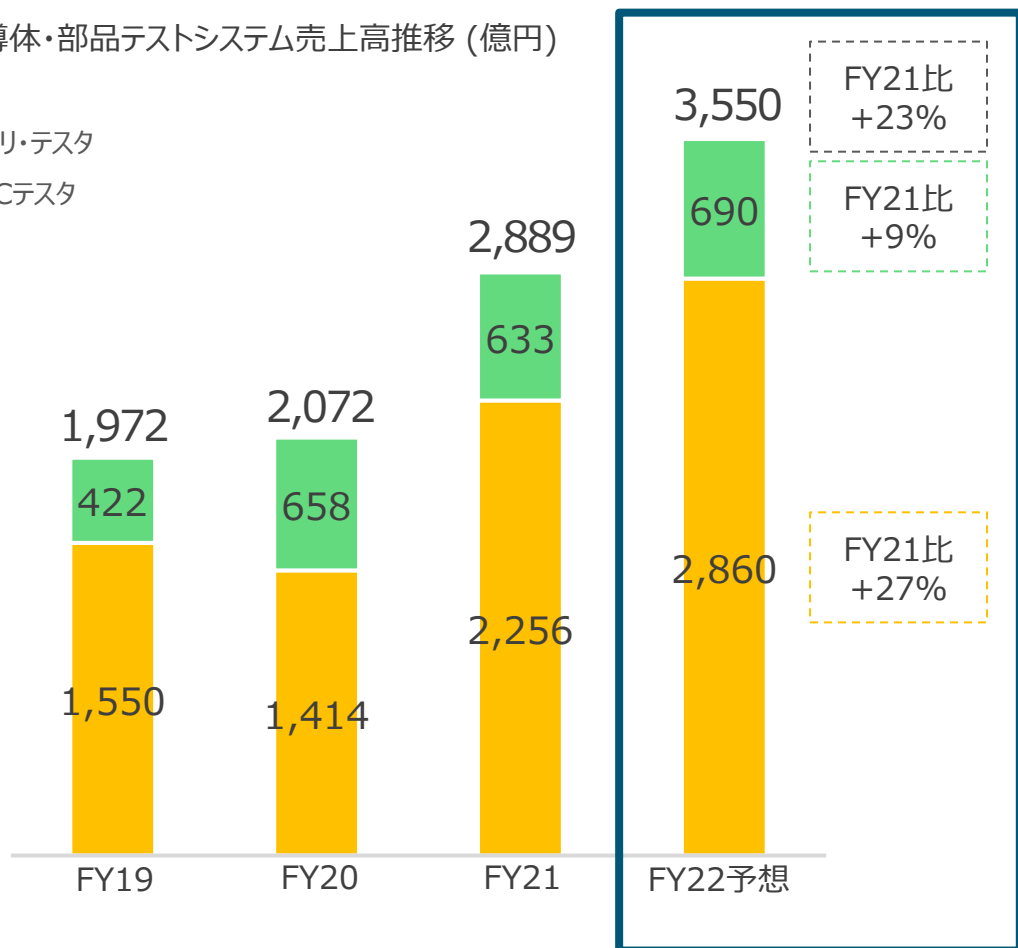
*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

*2:為替レート変動が今後の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+13億円です。対ユーロは-2億円です

FY22見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）

■ メモリ・テスト
■ SoCテスト



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

– 一段の微細化がテスト時間を伸ばすトレンドにある中、FY22は、先端プロセスを採用するHPCデバイスの品種数・生産量が増加。さらなるテスト需要を喚起

アプリケーション別内訳	FY19	FY20	FY21	FY22(予)
コンピューティング・通信	70%	55%	60%	70%
車載・産業機器・民生・DDIC*	30%	45%	40%	30%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

<メモリ・テスト>

– DRAMの微細化進展を受けての大容量化対応需要、DRAM高速化/広帯域化対応需要などで底堅く拡大

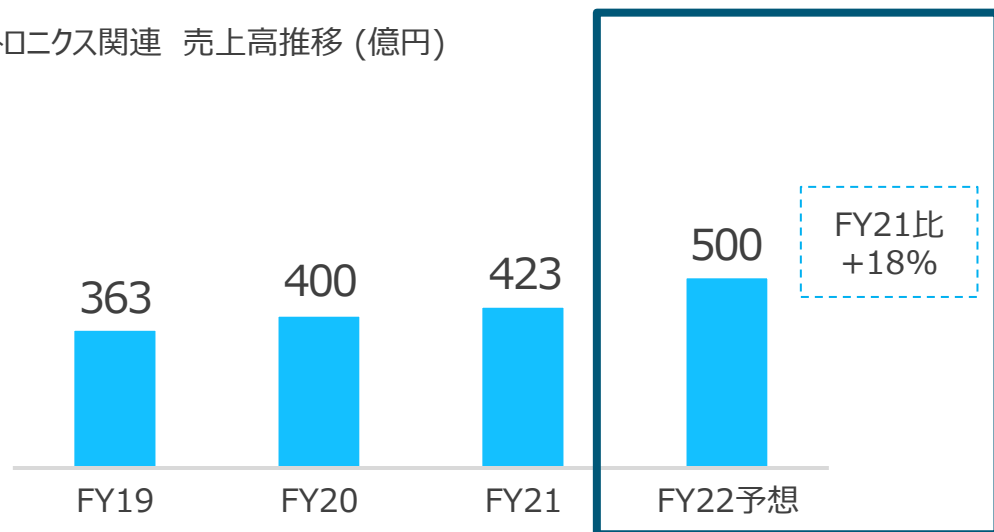
アプリケーション別内訳	FY19	FY20	FY21	FY22(予)
DRAM	70%	60%	60%	60%
NVM	30%	40%	40%	40%

*DDIC:ディスプレイ・ドライバーIC

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

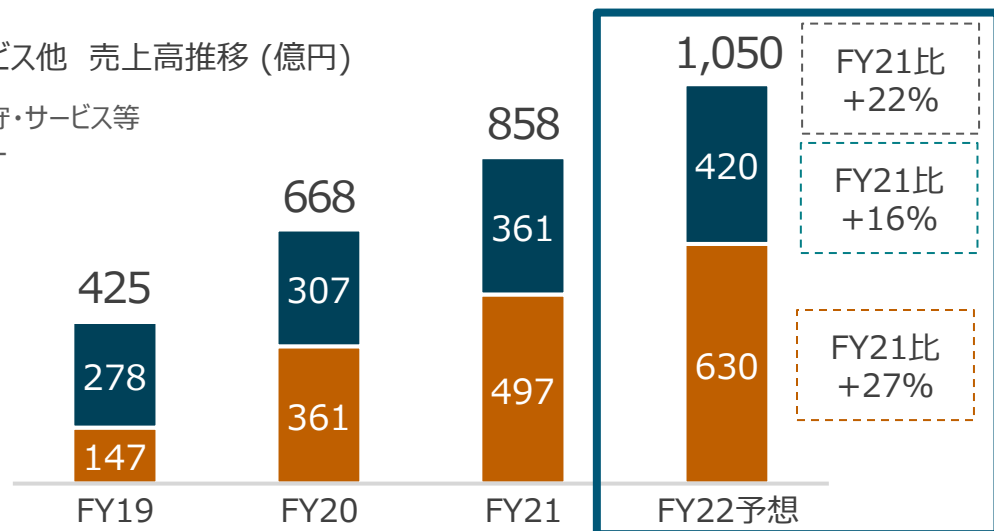
FY22見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



サービス他 売上高推移（億円）

- 保守・サービス等
- SLT



メカトロニクス関連事業

- テスタ需要と連動し、高水準なデバイス・インタフェース製品の需要も期待
- EUV露光の普及を受け、ナノテクノロジー製品の販売も順調

サービス他事業

- システムレベルテスト事業の堅調な伸びと、過年度成長投資を行ったりリカーリングビジネスの売上増を見込む
- 当社製品の設置台数の着実な伸びと、顧客における高い稼働率を背景に、保守サービスの需要増も順調

FY22の主要施策

- 部材調達難の長期化に対し、製品安定供給のための施策を最優先
- 最先端の半導体技術開発に取り組む顧客と協業し、高度な試験技術を開発
- 一段の業容拡大に向け、中長期視点で人材・設備の増強を図ることで事業基盤を強化
- デジタル・トランスフォーメーションを当社の成長機会とするため、データ・アナリティクス分野の取り組みを強化
- 半導体テスト工程に加えSLT需要も堅調に伸長。テスト本体にとどまらず、消耗品などリカーリングビジネスも強化
- 気候変動対応をはじめとし、ESGのさらなる推進を継続
- 地政学的リスクの高まり、インフレ進行など事業環境における不確実性が高い中、環境の変化に機動的に対応